

PRAEVIDENTIA DAILY (1月29日)

昨日までの世界：RBNZが中立化、FOMCはハト派化せず

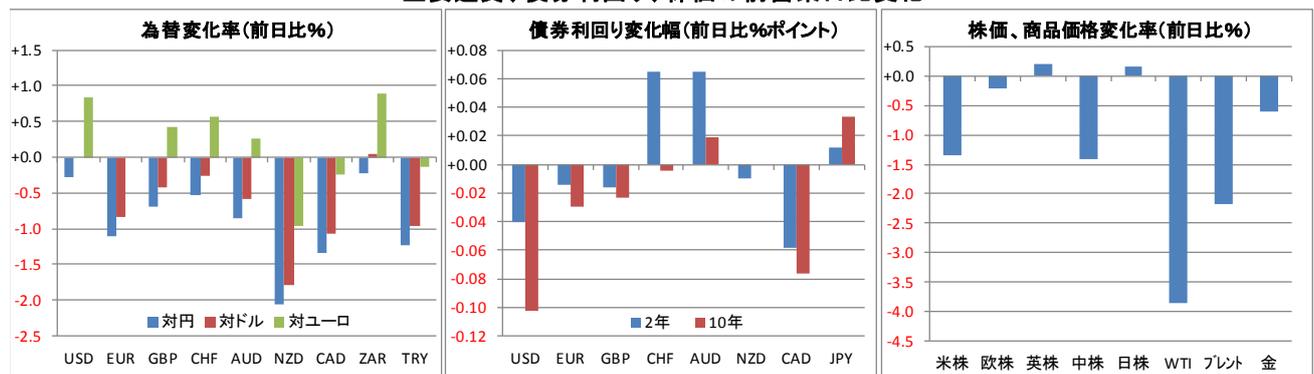
昨日は、米 FOMC 声明文で景気判断が上方修正され、年央の利上げシナリオを再確認する内容となったことから、ドルが対円を除く主要通貨で上昇、なかでも本日早朝に FOMC のすぐ後に RBNZ がタカ派姿勢を後退させ中立化した NZ ドルの下落が大きかった。

FOMC 声明文では、全体として景気判断が堅調な (solid) ペースで拡大しているとされ、これまでの緩やか (moderate) から上方修正されたことから、対ユーロを中心にドルが上昇、ユーロ/ドルは 1.13 ドル台半ばから一時 1.12 ドル台後半へ反落した。ギリシャでは新政権が国際支援の条件となっていた一部民営化計画 (ピレウス港など) を凍結、ギリシャ株式市場では ECB からの流動性支援停止や預金流出懸念から銀行株主導で株価が大幅下落、ギリシャ国債利回りは 1%ポイント以上上昇するなど、ギリシャ懸念が高まっていることもユーロの上値抑制要因となっている。

他方、ドル/円は、FOMC 声明文がタカ派的との解釈もあって米株価が下落したことや、原油安もあって、米中長期債利回りが低下したことから 117 円台後半から 117 円台前半へ小幅に下落した。米債券市場では FOMC 声明文で今後の利上げに際してはインフレだけでなく国際情勢も考慮するとされた点がハト派的だと解釈されたとの見方もあるが、全体として市場の利上げ期待を後退させようとした意図は見受けられず、利回り低下は株安・原油安を反映した面が大きかったとみられる。

RBNZ は、従来は今後の利上げの必要性を示すタカ派バイアスがあったが、今回声明文では政策金利 (OCR) を当面据え置くとし、かつ将来の金利調整について利上げも利下げもあり得る点を明記したことから中立化し、タカ派度の後退が市場予想以上だったと受け止められ、NZ ドルは対米ドルで 2%超下落した。豪ドルは、豪 CPI 発表で総合 CPI は前年比+1.7%と市場予想 (+1.8%) および RBA のインフレ目標レンジ下限 (+1.0%) を下回った一方、コア指標の一つである加重中央値が前年比+2.3%と市場予想 (+2.2%) を若干上回ったことが注目され、豪ドルは 0.79 ドル丁度近辺から一時 0.80 ドル台へ上昇した。もっとも、その後 FOMC 声明文発表後の米ドル高を受けて反落、再び 0.79 ドル割れとなっている。カナダドルは、原油安と FOMC を受けた米ドル高もあって、米ドル/カナダドル相場は 1.24 ドル台半ばから 1.25 ドル台乗せへ下落した (カナダドル安)。

主要通貨、債券利回り、株価の前営業日比変化



きょうの高慢な偏見：ハト SARB レー？

きょうの注目通貨：ZAR↓、EUR↓

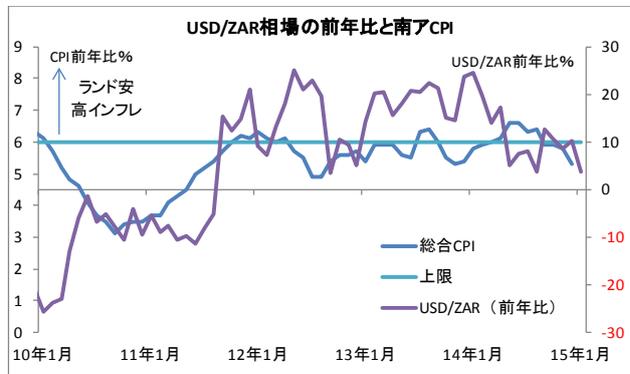
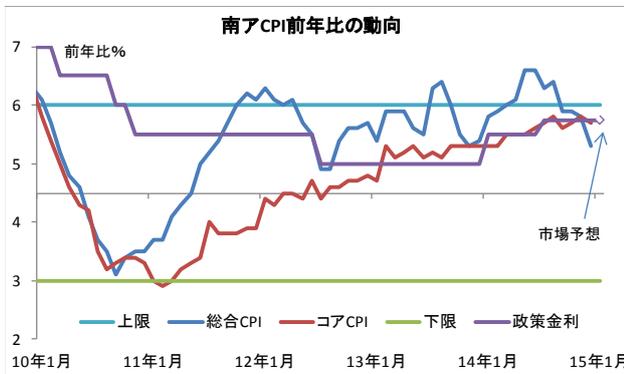
きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
ドイツ1月失業率	17:55	6.5%	6.5%	
独1月HICP前年比	22:00	+0.1%	-0.2%	
南ア準銀金融政策決定・レポ金利	22:00	5.75%	5.75%	
米新規失業保険申請件数	22:30	30.7万件	30.0万件	
米12月中古住宅販売成約件数	0:00	+0.8%	+0.5%	
Powell・FRB理事発言（決済システム関連）	3:00			中立、常に投票権あり

（出所）トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

ドル/円は、FOMCではタカ派姿勢が維持されたものの、原油や米株価が上昇しないことには上昇基調に回帰できないことが確認されたことから、米企業決算を含め、米株価への注目度が高まりそうだ。また来週の雇用統計では賃金が持ち直すのかが注目されることから、これらを確認するまでは116~119円のレンジ推移のリスクが出てきた。

ユーロは、米FOMCのタカ派姿勢が再確認されたことから、ギリシャ情勢不透明感もあって、対ドルで再び下落基調に戻りそうだ。

また本日は南ア準銀（SARB）の金融政策決定も注目される。市場では今のところ、今年中に6.00%への小幅利上げを想定する中で、今回は5.75%で据置き・引締めバイアスが維持されるという見通しで、この場合はランドにとって中立だ。もっとも、スタグフレーション（低成長と高インフレ）に苦しむ中で通貨防衛の観点からも高金利政策を維持せざるを得なかった南アとしては、原油安を受けて同国総合CPIが前年比で+5.3%と、インフレ目標レンジ（+3.0~+6.0%）上限を下回ってきたことは景気刺激面では援軍だ。米利上げ見通しを受けたドル高によるランド安リスクがあるため、大幅な利下げは難しいとみられるが、足許は米市場金利が安定しており、多くの中銀（昨日はシンガポールMASとRBNZ）がハト派化している中で、25bps利下げの可能性も意識する必要がある。この場合、景気にとってはポジティブだが、金利面からランド安となるリスクがある。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。
 当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。
 当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
 金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第2733号
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641